

投資環境の見通し（2026年8月）

国内株式

株価上昇要因

堅調な企業業績
世界的なインフレ鎮静化

株価下落要因

企業業績の悪化
長期金利の上昇

もみ合い

(円)

日経平均株価



1か月の予想レンジ 日経平均株価：57,000円～71,000円

国内株式市場は、4-6月期企業業績の堅調な見通しが相場の下支え要因になると見込まれます。一方、AI（人工知能）関連企業への巨額投資に伴う過剰投資懸念や収益性への懸念は、引き続き一部AI関連銘柄の上値を抑える要因と考えられます。また、為替介入などにより急速に円高が進んだ場合には、輸出関連銘柄への投資が手控えられやすく、これらの材料を見極めながら、もみ合う展開が予想されます。

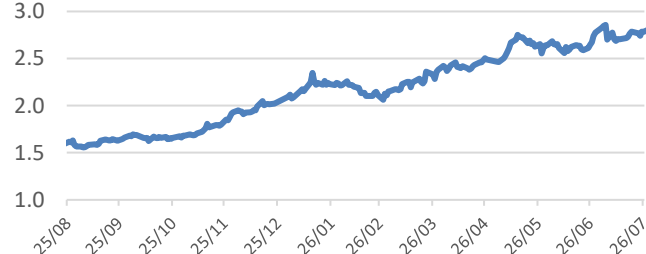
国内金利

金利上昇要因
(債券価格低下要因)国内インフレ圧力の高まり
日本の財政悪化懸念金利低下要因
(債券価格上昇要因)世界経済の減速
日本経済の悪化

もみ合い

(%)

10年国債利回り



1か月の予想レンジ 日本10年国債利回り：2.5%～3.0%

国内長期金利は、日銀の追加利上げ観測や、政府の消費税減税方針などを受けた財政悪化懸念が金利上昇要因として意識される一方、為替介入により急速な円安の流れが沈静化し、過度なインフレ懸念が後退することが金利上昇圧力を抑え、2%台後半でもみ合う展開が予想されます。

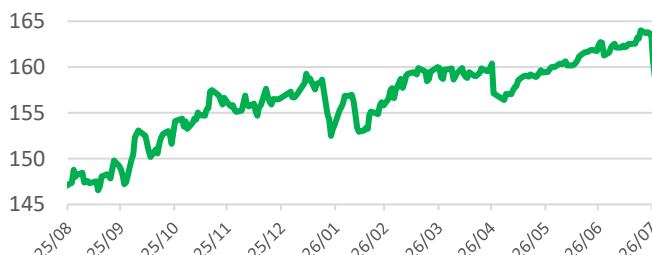
米ドル/円

米ドル上昇要因
(円安要因)米景気好調維持
米利上げ観測の高まり米ドル下落要因
(円高要因)為替介入（円買い・ドル売り）
米利上げ観測の後退

ややドル安

(米ドル/円)

米ドル/円 相場



1か月の予想レンジ 米ドル/円：150円～163円

米ドル/円は、日米協調の為替介入（円買い）に踏み切ったことで、円高圧力が強まっています。さらに、日米の高官が「更なる協調介入実施も躊躇しない」との声明を発信し、市場をけん制していることから、当面は追加の為替介入への警戒感が根強く、円高基調で推移すると予想されます。

※ 上記矢印は相場の方向性を示しています。

出所：QUICKのデータをもとに中銀アセットマネジメント作成

【本資料のご利用にあたっての注意事項等】

■当資料は、投資環境に関する情報提供のみを目的として、中銀アセットマネジメント株式会社（以下、「当社」という。）が作成したものであり、特定の有価証券への投資を勧誘・推奨するものではありません。また、当社が設定・運用する各ファンドの投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。■当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に掲載しているグラフ、データ等は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。■当資料に示す意見等は作成日現在のものであり、将来の市場環境の変動または運用成果を保証するものではありません。■当資料に記載されているベンチマークインデックスの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

中銀アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 中国財務局（金商）第10号
加入協会 一般社団法人資産運用業協会